

■ 平成 28 年度～29 年度 社会教育委員の会議 答申

□鹿屋市教育委員会諮問【平成 28 年 5 月 31 日決定】

「地域で育む青少年の教育活動」の充実について ～さまざまな子どもの活動とその支援～

はじめに

I T 化や経済、生活の仕組みが変わり、便利な生活の中で子どもたちは、地域や人のために活動するよりも個人の思いを優先して行動する傾向が強くなっている。また、地域を中心とした活動の減少や核家族化、I T 化等による社会の変化により人間関係の希薄化が続く中、幼少年期に社会との関わりや生活体験の少ない子どもたちが増えてきている。地域から学ぶ生活の知恵や体験活動等の減少は、子どもの時期に学ばなければならない経験値を下げ、子どもたちの自尊心の欠如や自己解決能力の低下を招いている。

そこで、平成 28 年 5 月 31 日、鹿屋市社会教育委員の会議は、鹿屋市教育委員会より「地域で育む青少年の教育活動～さまざまな子どもの活動とその支援～」について諮問を受け、6 回に渡り、現状の把握や背景等の分析、支援についての方針、施策等について協議を重ねてきた。その中で、特に協議の視点を①「子どもたちの体験活動に関する研修等の還元」と②「子どもたちが自立的に活動を進められる地域活動」の 2 つに絞った。

協議の中では、まず始めに、これまで各委員が所属する団体等で子どもたちとの関わりや経験を基に、「これまでどのような内容で関りがあったか。」「どのような手順で活動を進めたか。」「どのような成果があったか。」「どのような課題があったか。」などについて、ワールドカフェにより自由に意見交換を行った。

さらに、そこで出された課題を基に、「地域ぐるみで、子どもたちが自立するための地域活動を進めるためには、どのような体制や手立てが必要であるのか。」「また、「既存の組織、団体等はどのような役割を担い、どう行動すればよいのか。」などについて検討を進め、生涯学習成果の還元を進めるために、地域(関係団体)や行政等が有効に機能する在り方について提言を行うこととした。

以上のことを踏まえ、前回の答申で挙げられた地域ぐるみの青少年育成を理念として、子どもたちの自立を促すための有意義な体験活動等の実現を目指し、地域の各種団体が効果的に連携を図れるような体制が構築されるよう期待して以下のとおり答申する。

平成 30 年 2 月

鹿屋市社会教育委員の会議

I 鹿屋市における地域で育む青少年の教育活動の現状と改善の視点

1 鹿屋市の現状と課題

平成 27 年 12 月の中教審答申(地域と学校の連携・協働)を受け、地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を全国的に推進するため、平成 29 年 3 月に社会教育法が改正され、同活動に関する連携協力体制の整備や「地域学校協働活動推進員」に関する規定が整備された。

鹿屋市においては、少子高齢化、核家族化が進んできている。特に地域住民同士や世代間交流の希薄化が進み、地域においても伝統と文化の継承による人間関係を形成する場が減少し、人と人との交流や様々な経験を通じた豊かな人間関係を築くことが難しくなっている。

現在、行政では、青少年の健全育成に関する事業として「青少年育成大会」や「青少年市民会議」を開催し、また、鹿屋っ子クラブや子ども会の育成も行っている。さらに、生涯学習成果の還元や学校や地域の教育活動の更なる充実を目的として「かのや学校応援団」の施策を推進しているが、それだけではなく、各関係団体や行政が連携して意図的・計画的に子どもへの支援を行うことが今後の課題となる。

2 さまざまな子どもの活動とその支援における現状の背景及び状況

鹿屋市において現在実施されているさまざまな子どもの活動については、以下のような背景や状況が見られる。

- (1) 地域によって子どもの人数にばらつきがあり、また、全体として子ども会の会員が減少している。
- (2) 青少年育成の日、家庭の日を周知しきれていない。
- (3) 小規模校の統廃合に伴い、地域の連携が弱くなってきている。
- (4) 中学生が、子ども会に加入していない現状がある。
 - ア 子ども会から鹿屋っ子クラブへの道筋が出来ていない。
 - イ 子ども会の中でリーダーが育ちにくい。
- (5) 子ども会と町内会のつながりが弱い。
 - ア 地域の伝統芸能が、子どもたちへつながっていない。
 - イ 「地域の子どもは地域で育てる」という気持ちや、声かけ、見守りが不足している。
 - ウ 様々な環境で過ごすことの経験が不足している。
- (6) 地域のリーダー育成が出来ていない。
 - ア 育成会の役員が単年度で、後継者育成が困難となっている。
 - イ 想像力や創造力を働かせて、協力し合う場の設定が少なくなっている。

3 改善を図るための視点

鹿屋市の現状を受け、子どもたちが多くの体験活動の場に恵まれ、地域や学校において主体的に活動を進めるための支援のあり方について以下のとおり改善の視点を設けた。

- (1) 子どもを対象にした各種研修の充実
各種社会教育団体は、子どもを対象にした研修を企画・運営しているが、子どもたちの体験活動や自主性を活かした研修をどのように推進していくか。
- (2) 家庭・学校・地域の連携
子どもを中心として家庭、学校、地域が連携し、それぞれの地域の伝統行事などをどのように後世の子どもたちへ継承していくか。
- (3) 行政による子どもたちに関わる各種事業のボランティア育成
行政としては、地域の方々が青少年に関わる場の設定や子どもたちと関わるボランティアの育成をどのように図るか。

II 提言

□視点1【子どもを対象にした各種研修の充実】

各種社会教育関係団体は、子どもを対象にした研修を企画・運営しているが、子どもたちの体験活動や子どもたちが自主性を活かした研修をどのように推進していくか。

提言1 地域によって、児童・生徒数に差があるが、どのような地域においても子どもたちが様々な体験活動等に参加でき、また、子どもたちが主体的に活動を企画・運営できるような体制を確立する必要がある。

【具体策】

- 第3土曜日の「青少年育成の日」は、「子ども会定例活動」の日であることを、地域全体で認識していけるよう、子ども会活動に積極的に関わっている町内会等を賞賛したり広報したりする。
- 各種社会教育関係団体が、研修会等を企画する際、リーダー育成を考慮した研修計画が作成されるよう指導・助言を行い、地域ぐるみによる青少年健全育成の気風を醸成する。

□視点2【家庭、学校、地域の連携】

子どもを中心として家庭、学校、地域が連携し、それぞれの地域の伝統行事などをどのように後世の子どもたちへ継承していくか。

提言2 子どもたちの健全育成を図るためには、家庭、学校、地域が連携を図り、地域ぐるみで子どもを支援する体制を検討する必要がある。

【具体策】

- 家庭・学校・地域が、それぞれのよさを活かして意図的・計画的に行事等を行うために、学校と地域を結ぶ地域リーダーを育成する。
- 「地域学校協働本部事業」を進める生涯学習課と「コミュニティスクール(学校運営協議会制度)」を進める学校教育課が連携し、教育委員会全体で体制整備を進める。

□視点3【教育委員会による子どもたちに関わる各種事業のボランティア育成】

行政としては、地域の方々が青少年に関わる場の設定や子どもたちと関わるボランティアの育成をどのように図るか。

提言3 行政は、子どもたちが関わる様々な事業において、地域の方々がボランティアとして参加できる場を設定したり、ボランティアを育成したりする必要がある。

【具体策】

- 生涯学習講座の受講生や各種同好会の方々が、学んだことや得意なこと等を生かし、ボランティアとして子どもたちと関わりを持てるような体制を構築していく。
- ボランティアとして活動できる場について情報提供を行う。
- ボランティアを育成するための研修会等を実施する。